

高度4千^{*}の上昇に成功

大樹実験用飛行船の定点滞空試験

【大樹】国が研究開発を進める「成層圏プラットフォーム」の定点滞空飛行試験が19日、町多目的航空公園で行われ、遠隔操作による実験用飛行船（全長68㍍）が高度約4千^{*}の上昇に成功した。試験に取り組んでいる独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と情報通信研究機構（NICT）によると、高度面では今年度当初の目標を達成。3種類の通信放送実験も成功した。（松村智裕）



8の字描きゆっくりと
今年度当初の目標達成

成層圏プラットフォームは、高度約20千^{*}の成層圏で250㍍の無人飛行船を多数機浮かべ、人工衛星のように通信放送、地球観測に役立てる計画。この日は午後0時15分に飛行船が離陸。8の字を描きながらゆっくりと上昇した。高度3600㍍で約20分間滞空し、地上からの映像信号を受け取って発信するデジタル放送実験のほか、管制塔とのレーザーによる光通信実験、電波の方向を把握する無線局位置推定実験の3種類の試験が行われた。

目標としていた高度4千^{*}に到達し、各種実験も成功した実験用飛行船

大樹町の旭浜、シーサイドパーク広尾付近で待機していた実験用車両が飛行船を中継局とした映像信号を受信するなど、実験は順調に推移。離陸から3時間15分後の午後

3時半に同公園へ着陸した。飛行試験は22日にも行われる予定。12月上旬までをめどに基礎データの取得作業が続けられる。